



これからが旬の「赤い本」のお話

各学年フリースペースの本棚に教学社の「大学赤本シリーズ」通称「赤本」が置いてある。創刊は1954年というから、今から70年前にはあったことになる。当初はわずか3銘柄から始まったものが現在、554銘柄を刊行しそれに携わった解説者は1,000人を超えるという。

皆さんはこの「赤本」の最初に書かれている「はしがき」が毎年異なるのをご存じだろうか。私はこの「はしがき」を毎年楽しみにしている。その中でも特に印象に残ったものをここでは紹介するので、自分の手元に「赤本」があれば手に取って読んで欲しい。なぜなら、「はしがき」には発刊当時の世相が反映されていたり、受験生に対する著者の熱いメッセージが込められていたりしているからだ。

以下2017年版の「赤本」の「はしがき」である。



大学入試の季節が近づいてきた。寒い雪の日の朝、電車の中で受験生と思しき若者が単語帳を開いているのを見るにつけ、もうかれこれ数十年前になるが、かつて自分自身が受験生だったときの姿を重ねてしまう。

高校3年生の冬、受験に失敗した。後で振り返ると、漫然と塾や予備校に通い、基礎もできていないのにレベルの高い参考書に手を出し、やった気になっていた。実際はたいして勉強していないのに、根拠のない自信と慢心があって、案の定それはもうくも打ち砕かれた。大学で何をやりたいのかさえはつきりしないまま、よく考えずに志望校を決めていた。

浪人して改めて自分を見つめ直し、多くの本を読んだ。1年間の計画をしつかりと自分で組み立てたいと考え、自宅浪人の道を選んだが、思い返せば、悶々ともがき苦しみ、天井を眺めてはのたうち回るような日々であった。自分を見失い、自堕落な毎日をすごすこともあったが、試行錯誤の中でなんとか目標を見定め、少しずつ自分のペースをつかめるようになっていった。

受験当日のことはほとんど覚えていないが、手応えはあったものの、自信があるというわけではなかった。合格発表の日もすぐに見に行く勇気がなく、行ったときには既に掲示板のまわりは閑散としていたが、張り出されていた小さな紙に自分の受験番号を見つけたとき、しばらくその場に立ちつくして離れることができなかった。大学受験はあくまでも人生における通過点にすぎず、それ自体が目的ではないのだが、受験を通して身につ

たこと、学んだことはもちろん、様々な努力と試行錯誤を重ねた経験は、将来なんらかの形で人生の支えとなるかもしれない。雪の日に受験生を見かけるたびに、もう一度やり直せと言われてもできないような濃密な日々を懐かしく思い出すのである。

最後になったが、家族や友人など、支えてくれる周囲の人たちへの感謝を忘れず、受験本番で持てる力を存分に発揮できるよう健康管理にも十分に注意し、見事合格の栄冠を勝ち取られることを願ってやまない。

編者しるす

1,000人もの解説者がいるのだから、それぞれが色々な人生を歩んできたことは、冷静に考えれば分かること。それでも赤本の編者が、基礎も出来ずに高い参考書に手を出し受験に失敗、その後の浪人生活の悶々とした不安や苦しみを、「はしがき」に書いていたことには、驚きと共感を覚えた。

ここからは特に3年生へ向けての意味合いが多くなる。受験生は時間が無くなればなくなるほど、目の前のことだけに注意が行きがちだが、過去の問題に触れるだけが「赤本」の役目ではない。知っている人もいるとは思いますが、「入試状況(志願者数・競争率など)」や受験年度ごとの「合格者最低点・平均点」。それから各学部の合格者による「合格体験記」と、同じく「受験のアドバイス」・「科目別攻略アドバイス」と、受験生への有効な情報が満載だ。過去問に手をつけるだけで、これらの情報に目を通さないのは勿体ない。

因みに最新の「赤本」鹿児島大学文系・理系の「受験アドバイス」から一部紹介。【時間を上手く使うためにしていた工夫を教えてください】やはり大敵なのはスマートフォンやゲーム機です！自分で使用を控えることはなかなか簡単ではありません。そこで、私は画面の色を白黒にし、見ていて疲れる画面、みたくない画面を物理的に作りました。そうすることで時間を無駄にすることなく、より勉強に集中することができました。…文系

【「赤本」の有効的な使い方を教えてください】赤本は13年分を解きました。難易度や傾向はそれほど変わらなかったもので、時間が許すだけ、同じ大学の問題にたくさん触れました。実際に受験した年度にも似たような問題が出ていたので、やっておいて損はないと思います。特に、直近3、4年分は繰り返し解いて鹿児島大学の形式に慣れることで、初めての問題でも徐々に解き終えるまでの時間が減っていきました。…理系





①自立について

本来勉強は孤独な作業であり、精神的に自立している人には、自分一人で勉強することが最も効果的です。ひとりで数時間机に向かっていることが困難である、また目的・目標が定まらなくて勉強の動機づけができていない場合には、自分の現状を根本的に検討し直すことが必要だと思います。他人の勉強の進み具合や、学部や入試科目の変更など受験に関する情報に気をとられて落ち着きがなくなると、レベルを上げる厳しい取り組みや、広い範囲の整理をする時間がかかる地味な勉強ができなくなり、学習の効果が半減してしまいます。今後、1年生の皆さんは「自立」して自分の力で勉強し、自分の力で大学受験の手続きまで、自分で責任をもつ必要があります。何より、受験は一人で出かけるものですから、「自立する」とはどういうことか、どう行動することなのか、よく考えてほしいと思います。

②集中力について

勉強を始めるときに気持ちを切り替え、どれだけ集中力を持つことができるかが、その勉強時間の学習効果を左右します。覚えた内容が、いつまでも正確に記憶されているかどうかは、覚えた時の集中力の強弱によって決まります。短期間の勉強の効果が上がるかどうかは、集中力があるかないかによって決まります。さらに勉強の内容が良いか悪いかにも最も関係の深いのが集中力です。レベルの高い内容になるほど、良い集中力が求められますので、集中力を鍛えなければ、相当に量があるハイレベルの内容を消化することは不可能です。つまり、「集中力がなければ、そもそも受験勉強はできない」のです。基礎的な内容を完全に理解し、自由な形で使えるという基礎学力が完成されていることが、思い切ってレベルアップするときに大切なことです。例えば、難しそうな問題が解けないときに、その項目の例題をやり直すのは、集中力を調整し直すことにもなります。



③持久力について

長期間の勉強効果を左右するのが持久力です。最終的には、細かい解法のテクニックを身につけるよりは、総合的なバランスの取れた学力を目指す方が良い結果をもたらすことになりますが、それを支えるのが持久力です。基礎学力と言われる部分の勉強(たとえば英単語や漢字や歴史用語の暗記、計算練習など)では、単純作業の繰り返しで徹底していくことが多いのですが、持久力が弱いと、すぐ内容に飽きて、学力は頭打ちになって伸びなくなります。勉強時間が十分にあれば、生徒同士の学力差はなくなってもよいはずですが、反対に生徒同士の学力差が大きくなるのは、この持久力の差のためなのです。授業内でやるような小テストで満点近い点が取れないのに、大学入試問題が解けるような勉強をしようとしても、結局学力はいくらも伸びません。基本的な内容をマスターするときに、パーフェクトに押さえられるかどうかは、集中力と同時に持久力が要求されていることが多いのです。この能力がそのまま、ハイレベルの内容を何割マスターできるかどうかということにつながるのです。ある内容を完全に理解したか、大体理解したかの差は、そこだけならば小さくて問題にならないように見えても、易しいテストの100点と80点の差は、少し難しいテストになると、80点と40点の差になり、難しいテストでは、60点と10点の差になってしまうのです。



④計画性について

考査や受験前になると、広い範囲の勉強を始めたり、程度が高い内容の勉強を始めたり、基本的な内容であっても理解を徹底する勉強を始めたりする必要があります。そのような実行「意志」を持って勉強を始めるときに大切なのは、実行「計画」です。勉強を長時間続けて効果的なものとするには、始めるときに強い実行「意志」を持つことが不可欠で、そのためには、実行「計画」の大まかな流れが決定しなければなりません。勉強計画は、どの時期に、どの科目に、どの時間を配分するかを検討から始めて、どの科目は教科書・プリント・問題集のどの部分を使って、どの程度まで、いつまでにマスターするかを検討まですると良いでしょう。